



一 麻酔科医の雑感

白石区支部 中尾 康夫

コンピュータシステム

平素、手術室に勤務し、日々の麻酔業務に没していると、DPCが導入され、医療費の包括化が進行していることなど、なかなか感じられない。しかしながら、包括化の方向に病院が進むため、コンピュータシステムの刷新を迫られた。20年間使用した古いコンピュータシステムではオーダーリングにも対応しておらず、電子カルテ化、レセプトの電算化にも対応できていなかった。しかし、つい最近まで使用できていたことは特記すべきことと考えられる。システムを入れ替える委員会の責任を任せ様々な事を検討することとなった。

システムを入れ替え、斬新なシステムを構築し病院の機能にあった最適なものは何であるか、また導入するに当たって各部署および部署間での、指示箋・処方箋等の伝票類の使い方およびその動き、医師・看護師・薬剤師・検査技師・放射線技師等、病院医療従事者の行動、薬品・診療材料等の物品の動きなどを総て把握することが必要となる。各部署に出向き業務内容を確認し運用面ではどの様にできたら最適なのか検討するが、個人個人によって、システムに望む内容が異なるため、その内容を統合することが難しい。これから徐々に新しいシステム

を構築してゆかねばならない。

4月1日よりオーダーリングシステムを一部開始し、古いコンピュータシステムで使用していた機能はほぼ移行できた。今後、電子カルテまで移行すると、診療内容がどれだけ改善されるのか楽しみである。実際使用開始すると、それ以前より悪化したということ、よく小耳に挟むがそうならないようにしたいと考えている。

医療費改定

平成18年4月の医療費改定では、医療費全体ではマイナス査定となっているが、麻酔科は重点項目のひとつになり、今回の改定では数少ないプラス査定となった。特に重症患者麻酔の項目新設は、麻酔科にとって重要と考えられる。今までは、どのような患者さんの麻酔を担当しても保険点数は同一であった。麻酔をかけただけで心臓が止まってしまうような老人でも、マラソンを走りきれるような元気な若者でも同一点数であることは、実際の麻酔を担当していて腑に落ちないものであった。重症患者麻酔の新設によって、麻酔科を希望する若い医師がすぐに増えるとは考えられないが、今後のために、良いことと考えられた。

(札幌北楡病院)